

聖書日課 『からし種』 2021.2.7-2.14

<p>2月7日 (日) 箴言 29章</p>	<p>「人は恐怖の罠にかかる。主を信頼する者は高い所に置かれる。支配者のご機嫌をうかがう者は多い。しかし、人を裁くのは主である」(25～26節)。私たちが従うべきは、主なる神だけ。神以外により頼んでも、それは人に自分の主導権を譲り渡すため。主を畏れることは主に主導権を委ねること。そうすれば主が私たちの道を守ってください。</p>
<p>8日 (月) 箴言 30章</p>	<p>「神の言われることはすべて清い。身を寄せればそれは盾となる。御言葉に付け加えようとするな。責められて／偽る者と断罪されることのないように」(5-6節)。「神の言われることはすべて清い」。神の言葉に、わたしたち人間が足しても引いてもいけないのだろう。神が聖書を通してくださるものだけを受け取っていく道を歩むことができるように。</p>
<p>9日 (火) 箴言 31章</p>	<p>「マサの王レムエルが母から受けた諭しの言葉」(1節)。箴言の最後は、王の母の言葉で終わる。旧約の時代、家父長制の中でも女性たちの知恵もこうして聖書に加えられている。神が男性たちだけでなく、当時数にも入らなかった女性たち、また成人していない子どもたちにも同じように語りかけられているのだろう。知恵の言葉は、一人ひとりに語られている。</p>
<p>10日 (水) コヘレト 1章</p>	<p>「かつてあったことは、これからもあり／かつて起こったことは、これからも起こる。太陽の下、新しいものは何ひとつない」(4-5節)。コヘレトは「人を集める者」と訳される言葉。この言葉は信仰共同体の中で語られている言葉であり、今の私たちにも語られる言葉。主の真理は、すべてがはじまる前から私たちに備えられているもの。</p>

聖書日課 『からし種』 2021.2.7-2.14

<p>11日 (木) コヘレト 2章</p>	<p>「神は、善人と認めた人に知恵と知識と楽しみを与えられる。だが悪人には、ひたすら集め積むことを彼の務めとし、それを善人と認めた人に与えられる。これまた空しく、風を追うようなことだ。」(26節)。コヘレトの言葉には「風を追うようなこと」が繰り返される。神の正しさを人が決めることができない。主のみ心を祈り求めながら生きることしかできないのだろう。</p>
<p>12日 (金) コヘレト 3章</p>	<p>「人が労苦してみたところで何になろう」(9節)、「神はすべてを時宜にかなうように造り、また、永遠を思う心を人に与えられる。それでもなお、神のなさる業を始めから終りまで見極めることは許されていない」(11節)。主が時宜に必要なものを備えてくださるのだから、主の計画から離れた人の労苦は空しい。主の計画に聞き従い、歩むことが幸いなのだろう。</p>
<p>13日 (土) コヘレト 4章</p>	<p>「民は限りなく続く。先立つ代にも、また後に来る代にも／この少年について喜び祝う者はない。これまた空しく、風を追うようなことだ」(16節)。主の時は私が立ち止まっても流れていく。人の一生は主の時の中では一瞬。その一瞬をだれと生きるのが大切なのだろう。主に呼び集められた者(教会・エクレスシア)の中で生きる恵みをいただいて歩みたい</p>
<p>14日 (日) コヘレト 5章</p>	<p>「焦って口を開き、心せいて／神の前に言葉を出そうとするな。神は天にいまし、あなたは地上にいる。言葉数を少なくせよ」(1節)。お祈りという「何か言葉にしなれば…」と心せいてしまうけれど、無理に言葉にしなくてもいい。天におられ、すべてをご存知の神さまの前に座り、「あなたの言葉を聴かせてください」と祈り願う。その静かな時を大切にしたい。</p>